令和６年５月　吉野町教育委員会定例会議　会議録

日　時：令和６年５月１６日㈭　午後３時～　場　所：町中央公民館４Ｆ教育長室
出席者：吉野町教育委員会　教育委員３名　事務局　４名　欠席２名

１．開会挨拶
２．審議案件
議第１号　後援名義の申請について
①「2024 年度ジュニアキャンプ」･･･【資料 1】
質疑応答・異議なく、全会一致で承認

議第２号　令和６年６月定例議会の上程案件（補正予算）について
① 文部科学省委託事業「青少年教育施設を活用したネット依存対策事業」･･･【資料２】
委員：さくら学園の児童・生徒は何人くらい参加したのか。
事務局：昨年１０月開催の吉野宮滝野外学校でのオフラインキャンプには、参加していない。教育長がキャンプ参加の子ども達の様子を現場視察、キャンププログラムの効果に手応えを感じ、次年度には、同じ悩みを抱える吉野町の子どもたちも一緒に参加させたいということから、今回の取組につながった。
委員：参加費は必要か、補助金で賄われるのか。
事務局：昨年のキャンプでは個人負担もあった。当初予算に吉野町の子どもたちの参加を促進するため、負担金補助の予算を計上している。
委員：ネット依存の社会に対応するということは、ネット（バーチャル）の世界と、リアルな現実世界とのバランスが求められると思う。吉野の自然・歴史文化の豊かな自然環境のもとで、キャンプ体験を通して、リアルな楽しみを実感してもらうことは、吉野の環境のもつ力をもって、ネット依存課題に有効な手立てを探ることだと思うが如何か。
事務局：具体的には吉野町野外活動拠点施設を運営している大阪府青少年活動財団が行う、野趣溢れる象川での鮎つかみや、喜佐谷の休耕田を活用した農園での芋掘り体験等の体験プログラムと併せ、人間関係を豊かに築くプログラムが、野外活動の環境基盤となっている。そのうえで、ネット依存に関する研究者等の専門家チームが、如何にリアルの体験がネット依存対策に有効かという実証的な試みであり、当町でもネット依存で悩んでいる子どもたちや保護者へ、有効なアプローチを示すことができるものと期待している。
この取組をとおして、当町として更に当該施設のもつ素晴らしさを、町内外に発信していく契機につなげたいとも思っている。
委員：ネット社会の中でどのように子どもを育んでいくのか、ということは大きな教育課題であり、吉野のような恵まれた自然環境に身を置くことによって、改善される実証結果が出たとしたら、尚且つ当町でそれらが行われたということが、非常に大きな資源になる。是非この様な形で進められること、町にとってもうまく利用ができるような形にしていただきたい。

次長：ネット依存になった場合「吉野町で依存症が治せる」というところまでの
実証ができればいい、と考える。当町でのプログラムが子どもたちに嵌まり、
こういう環境でこういう活動をすれば、ネット依存から脱却できる、という
事が証明されてほしいと思う。自然環境をセールスポイントとして、同様に
依存している子たちと話し合いながら、生身の関わりを感じさせつつ、
自分の生活を見つめ直すという方向性の活動であると考える。

委員：このプログラムの中で宿泊体験などもこのフォローアップという事が一番
大事になってくる。継続的にその子たちを追跡していく、一緒に見守って
いくことが必要であるが、このフォローアップは１回だけなのか。

事務局：本キャンプの前後に、オリエンテーションキャンプ、フォーローアップ
キャンプが予定されている。この取組は、一過性のイベントに終わること
なく、息の長い取り組みにしたいと考えている。

② 町中央公民館非常発電設備の更新等･･･【資料３】により事務局説明
質疑・応答なく全員一致で承認

３．報告案件

報第１号　教育総務課事業説明について･･････････････････････事務局説明
① こども園改修工事　② 働き方改革の保護者通知
②　役場新規職員のカヌー体験、津風呂湖カヌー大会

委員：働き方改革だが、様々な方向で取り組まれていると思われるが、
部活動指導がなくなればその分退室時間が早くなるのではないか。

事務局：部活動の地域移行として、去年までスポーツクラブと教育委員会、学校と
いう様な形で協議していたものが、社会体育団体、他にもスポーツ推進員
或いは保護者の方々の意見を聴取する必要から、地域移行に関する協議会
ないし検討会を立ち上げ、その中で方向性等を創り上げていく。
将来的にはこの部活動というものが、地域の中で民間或いはスポーツクラブ
等で担って頂ける様な形というものを目指していくと思われるが、まずは、
令和８年度から奈良県が土日の部活動に教職員を入れない、といった形で
動いているため、急な変革ではなく少しずつ変えていく、その中で教職員の
意識も変えていくという取り組みをまず実施していきたいと考えている。

委員：吉野郡の他の市町村はどういう状況か。

事務局：単一競技のみ、或いは当町と同様スポーツクラブでも受け持ったりされたり
しているが、全てがうまくいっている状況ではなく、アンケート等を実施
している状況だと伺っている。その辺りはいろいろと参考にしつつ、当町も
アンケート等を取り入れてやっていくべきなのか、或いは将来的に現在の
小学生の保護者の方々が恐らく対象となっていくと推測されるため、その
辺りをどの様に考えていくかを含めて協議会（検討会）の方で審議して
いければ、と考えている。

次長：平日放課後の部活動がなくなった場合、教員の帰宅時間は一定早まると
思われる。しかしこれは教員の仕事の大枠を示したものであって、部活以外
にもこの時間帯に多種多様の業務があるため必ずしも「部活動がなくなる＝

早く帰れる」とはいえない。
「部活動地域移行」とは「土日の部活動を教員から外す」というものであり、平日の部活動はこれまで通り学校で先生方によって行われる。
部活動に熱心な教員は休み返上で生徒に関わろうとするが、多くの先生方にとってはそれが困難となってきているため、土日の部活動地域移行を段階的にでも推し進める必要性を感じる。

報第２号　生涯学習課事業説明について‥‥‥‥‥‥【資料４】事務局説明

① 吉野町地域日本語教育の推進
② 吉野町学校園運営協議会（CS 導入）関連
③ 吉野町地域学校園協働活動
④ 高齢者等の情報格差是正のためのスマホ活用講座
⑤ 青少年健全育成　⑥青少年健全施策　⑦広報よしの掲載内容

質疑・応答なし

報第３号　華東師範大学第二付属中学との国際交流について‥‥【資料５】事務局説明

質疑・応答なし

４．その他事項

市町村教育委員会研究協議会の開催について‥‥‥‥‥【資料６】事務局説明

質疑・応答なし

次回の日程調整　６月２０日木曜日　午後４時～　町中央公民館４F 教育長室

５．閉会挨拶